

最近の製品事故状況と経年劣化対策の導入

平成20年1月8日

経 済 産 業 省 大 臣 官 房 審 議 官
本 庄 孝 志

1. 重大製品事故の受付状況

- 平成19年5月14日の改正消費生活用製品安全法の施行により、重大製品事故報告・公表制度の運用が開始されて以来756件の重大製品事故を受け付けた。
(平成19年12月26日現在)

	死亡		重傷		火災	CO中毒	後遺障害	計
		(うち火災による死亡)		(うち火災による重傷)				
ガス機器	7	(4)	7	(4)	90	5	0	109
石油機器	1	(1)	1	(0)	64	2	0	68
電気製品	8	(4)	18	(0)	361	1	1	389
うち電気こんろ	1	(1)	0	(0)	49	0	0	50
その他	13	(0)	154	(2)	21	0	2	190
うち電動アシスト自転車	2	(0)	27	(0)	1	0	1	31
うちデスクマット	0	(0)	44	(0)	0	0	0	44
合 計	29	(9)	180	(6)	536	8	3	756

- 消費生活用製品安全法に基づく事故情報報告・公表制度の対象となる重大製品事故の範囲は、死亡、重傷（治療期間が30日以上）、後遺障害、一酸化炭素中毒、火災（消防が確認したもの）。
- 消費生活用製品の製造・輸入事業者に対し、重大製品事故の発生を知ったときは、10日以内に国に報告することを義務付け。

2. 重大製品事故の公表処理状況

- 処理件数 742件 (12月26日現在)
- 重複報告、対象外(消安法の対象とする消費生活用製品に非該当、危害の内容が非該当)の案件を除き全て公表(732件)
- 最終的には全ての案件について事故原因とともに事業者名、型式名を公表
- ただし、原因調査中のものは、当面、製品名と事故概要のみを公表(242件)
- 報告受付時の審査並びに調査の結果により製品事故には該当しないと判断された案件については、第三者判定委員会でその妥当性を判定(70件)

重大製品事故公表等処理状況

	事業者名・ 型式公表	製品名 のみ公表 (原因調査中)	製品事故には 非該当	製品事故には 非該当とみられ る(今後、委員 会で妥当性を 判定する予定)	他省庁 送付案件	重複・ 対象外	計
ガス機器	63	-	23	18	0	1	105
石油機器	56	-	5	5	0	1	67
電気製品	175	177	23	4	0	4	383
その他	49	65	19	5	45	4	187
合 計	343	242	70	32	45	10	742

3. 重大製品事故報告上位品目

- 重大製品事故の報告件数が多い品目については以下のとおり。
(12月26日現在)

電気製品：	①電気こんろ	50件	→小型キッチンユニット用電気こんろ協議会を設立。改修を加速化。
	②エアコン	43件	→事故の詳細な状況・原因についてメーカーに確認し、今後の
	(うち室外機31件)		対応について指導する。一部リコール中。
	③扇風機	33件	→消費者への注意喚起の強化
	④電気洗濯機	24件	→一部リコール中
	⑤電気冷蔵庫	21件	→一部リコール中
燃焼器具：	①ガスこんろ	47件	
	②石油ふろがま	25件	→一部リコール中
	③ガスふろがま	20件	→一部リコール中
	④石油給湯器	19件	→一部リコール中
	⑤ガス湯沸器	12件	→消費者等への注意喚起
その他：	①デスクマット	44件	(厚労省) →リコール中
	②電動アシスト自転車	31件	→一部リコール中
	③脚立・踏み台・はしご	8件	
	④車庫用門扉	7件	→リコール中
	自転車	7件	

『小形キッチンユニット用電気こんろ』の使用にご注意ください！

こんな事故が起っています

こんろのそばを通った時に体や荷物などがつまみに当たって意図せずスイッチが入り、こんろの上にあった可燃物に延焼。

こんなとき、こんな原因で火事になる



これが原因

- ①電気こんろの上や周辺に可燃物を置いている。
- ②つまみ部分にカバーがなく露出しているため、意図せずスイッチが入ってしまう。

安全にお使いいただくために

安全なスイッチ操作部に交換致します。

お問い合わせは、お客様の所にお使いになっているユニットメーカーまたは、下記まで。

つまみが飛び出ているA、Bのスイッチは、ご連絡ください。

対象の場合は「無償」にて交換いたします。



火のないところでも火事になる
オーナー・管理人・入居者のみなさんへお願い
小形キッチンユニットのプラグインヒーター（電気こんろ）を安全に使っていただくために

こんなとき、
こんな原因で
火事になる



ここに注意

- ①電気こんろの上や周辺には絶対に可燃物を置かない。
- ②つまみ部分にカバーのない電気こんろを使用されている方は、メーカー等が行う無償改修を受けてください。

【問い合わせ先】小形キッチンユニット用電気こんろ協議会（03-3556-5915）

『電気ストーブ』の使用にご注意ください！

こんな事故が起こっています

**電気ストーブの上にバスタオルが落ちて、
バスタオルとストーブ本体及び周辺が燃
える火災が発生した。**



これが原因

**ストーブの上に洗濯物を吊して干すと、落下した場合に火災になる
恐れがあります。**

ここに注意

- ・ ストーブの上や近くに洗濯物や衣類等を吊してはいけません。
- ・ ストーブの近くに燃えやすいものを置いてはいけません。

『エアゾールスプレー』の使用にご注意ください！

こんな事故が起っています

- ・ 浴室内で虫を退治しようとして連続噴射後、入浴のために内釜に点火したところ引火して火災となり、やけどを負い入院。
- ・ 使用中のコンロ近辺に出現した虫を退治しようと噴射したところ引火して火傷を負った。



これが原因

スプレーには噴射圧力をかけるために可燃ガス(LPガス)が用いられているため、噴射により滞留した可燃ガスに、ガス器具の火が引火した。

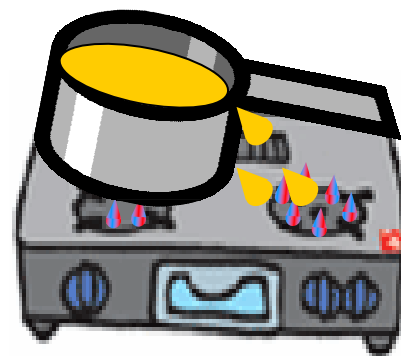
ここに注意

- ① 炎や火気の近く、高温となる場所ではスプレーを使用しない。(表示をよく読む)
- ② 使用中並びに使用後は十分に換気を行う。

『ガスレンジ』使用時の油引火事故にご注意ください！

こんな事故が起こっています

揚げ物を調理中、子供に呼ばれたので、ガスレンジ前面にある器具栓を閉じてその場を離れようとした際に、体の一部が鍋に引っかかって揚げ物油の油面が大きく揺らぎ、点火状態のバーナーの近くに油がこぼれてしまったため、油に引火して火災が発生した。（製品には異常はなかった）



製品に原因がない場合でも、消費者の誤った使用や不注意により、事故が起きる場合があります。

これが原因

不注意で、油の入った鍋に体がぶつかり油がこぼれてしまった。

ここに注意

- ①揚げ物の調理中は、油の温度などに注意し、そばを離れないようにしましょう。
- ②やむをえずガスレンジのそばを離れる際は、あわてずにしっかりと器具栓を閉じてガスの火を消しましょう。

『IH調理器』での天ぷら調理についてご注意ください！

こんな事故が起っています

銅に1 cmくらい（約250g）の油を引いて加熱し、過熱状態のまま数分間その場を離れキッチンに戻ると銅から火柱が上がっていた。



これが原因

- ・天ぷら調理の際に油の量が少ないと、温度調節機能が正常に働かず、油温が上がすぎる恐れがあります。
- ・銅の底に窪みや反りがあると、温度センサーが正しく検知できなくなる恐れがあります。

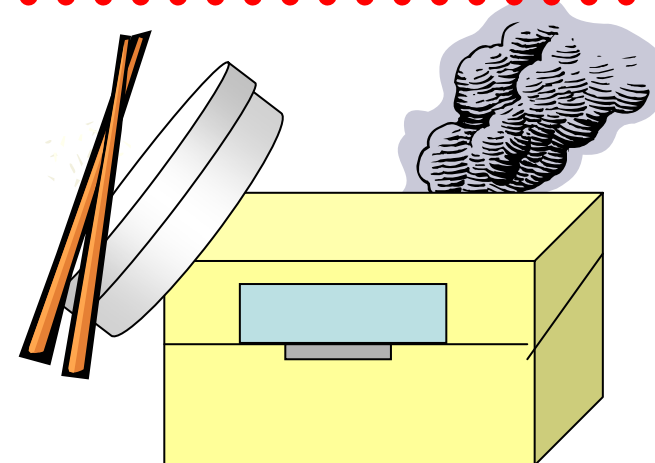
ここに注意

- ・油の量は、取扱説明書に指定されている最低限以上の量を入れましょう。
- ・天ぷら調理をする場合は、調理器に付属の銅あるいはメーカー推奨の天ぷら銅を使用するようにしましょう。
- ・調理中はその場を離れないようにしましょう。

『食器洗い乾燥機』の使用にご注意ください！

こんな事故が起っています

プラスチック製の箸箱を食器洗い乾燥機の洗浄かご内に入れてから洗浄を行っていたところ、当該機器から発煙した。



これが原因

洗浄時の水流に飛ばされた箸箱が、食器洗い乾燥機内部のヒーターの上に落ちて加熱されて発煙に至った。

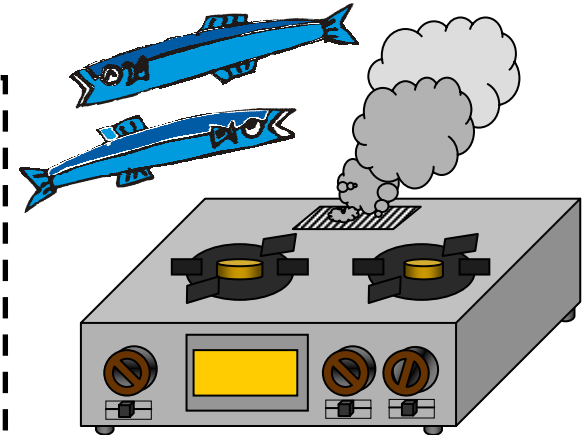
ここに注意

箸箱やプラスチック製容器の蓋など、軽くて小さい食器類は、取扱説明書の指示に従い小物用ポケットに入れて洗うようにしましょう。

『魚焼きグリル』のお手入れにご注意ください！

こんな事故が起っています

- ①ガスこんろに組み込まれたグリルで魚を焼いていたところ、グリル排気口から炎が上がった。
- ②電気グリルで魚を焼いた後、受け皿を引き出した状態で置いて食事をしていたところ、発火した。



これが原因

- ①グリル内部に魚の脂が付着した状態で、使用を続けたためガスバーナーの熱により脂に引火した。
- ②グリル内部に魚の脂が付着した状態で、調理後すぐに受け皿を引き出したところ空気が供給され庫内でくすぶっていた炎が大きくなり発火した。

ここに注意

- ・グリル内には、魚の脂などの汚れが付着しないよう、日頃から清掃手入れをする。

経年劣化対策の導入

背景

経年劣化重大事故の発生

製品の多機能化、高度化、複雑化の進展等により、消費者自らによる保守の困難化

消費者自身による製品保守の限界要因

情報が十分に提供されていない。
消費者・事業者間の効率的に情報を共有する仕組みが乏しい。
質の高い点検体制が整備されていない。

対応

消費者の保守についての自覚、事業者による情報提供と点検体制整備、国による情報収集と公表を基本的考え方として、経年劣化対策を整備することが必要。

*改正消費生活用製品安全法が昨年11月に国会で成立し、11月21日に公布。

長期使用製品安全点検制度～安全に長く使うために～

消費者自身による保守が難しく、経年劣化による重大事故の発生のおそれが高いもの(特定保守製品)について、消費者に保守情報を適切に提供するとともに、点検の通知や応諾を製造・輸入事業者を求める制度。

特定保守製品の点検その他の保守の促進

①製品への表示等の義務付け

製造・輸入事業者に対して、設計標準使用期間、点検期間等の製品への表示、所有者情報を製造・輸入事業者へ提供するための書面(所有者票等)の添付を義務付け。

②重要事項等の説明の義務付け

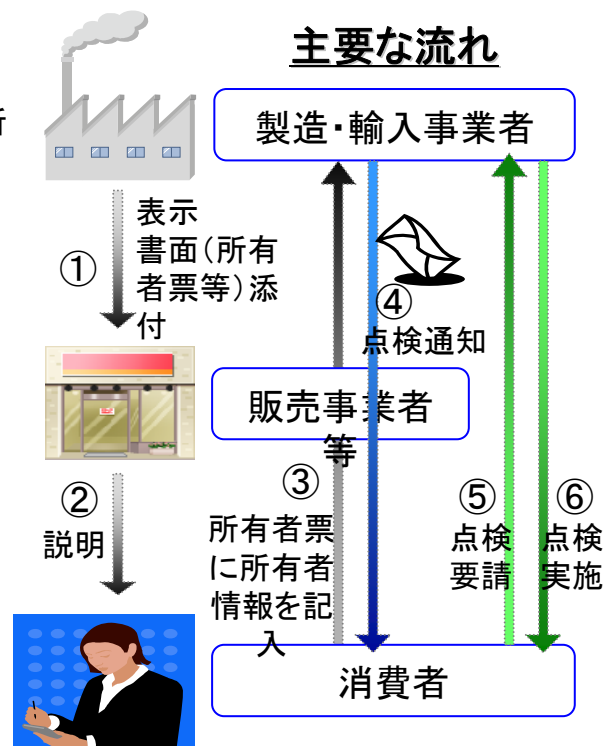
取引事業者(販売事業者等)に対して、経年劣化によるリスクと適切な保守の必要性について取得者に説明することを義務付け。

③消費者による所有者票の返送と販売事業者の協力

消費者は所有者票を製造・輸入事業者へ返送。その際、販売事業者等は、返送を代行する等により協力。

⑦国による情報の収集・公表

特定保守製品等の経年劣化に関する情報の収集・公表及び点検事業者に関する情報の収集・公表。



④点検の必要性等に関する通知の義務付け

製造・輸入事業者に対して、点検期間の前に消費者へ点検の必要性等につき通知することを義務付け。

⑤点検実施の責務

所有者は、点検期間に点検を行う等保守に努める必要。

⑥点検実施の義務付け及び点検実施体制整備等

製造・輸入事業者に対し、点検期間中に点検要請を受けたときの点検実施を義務付け。また、既販品を含め、点検その他の保守を適切に行うために必要な体制を整備する必要。また、経年劣化情報の収集、消費者への提供とともに、設計、部材の工夫等により経年劣化危害の発生防止に努力。

長期使用製品安全点検制度の対象製品(案)

対象製品については、経年劣化に係る重大事故の発生確率が1PPM以上の以下の9製品とする。

- 屋内式ガス瞬間湯沸器
- 屋内式液化石油ガス用ガス瞬間湯沸器
- 屋内式ガスバーナー付ふろがま
- 屋内式液化石油ガス用ガスバーナー付ふろがま
- 石油給湯器
- 石油ふろがま
- F F 式石油温風暖房機
- ビルトイン型電気食器洗機
- 浴室用電気乾燥機

(参考)

製品本体の表示のイメージ

【特定製造事業者等名称・住所・連絡先】

(株)ABC
東京都〇〇区△△
0120-000000

【製造年月】

200△年◇月

【設計標準使用期間】

XX年

【点検期間】

20YY年6月～20* *年5月

【製造番号】

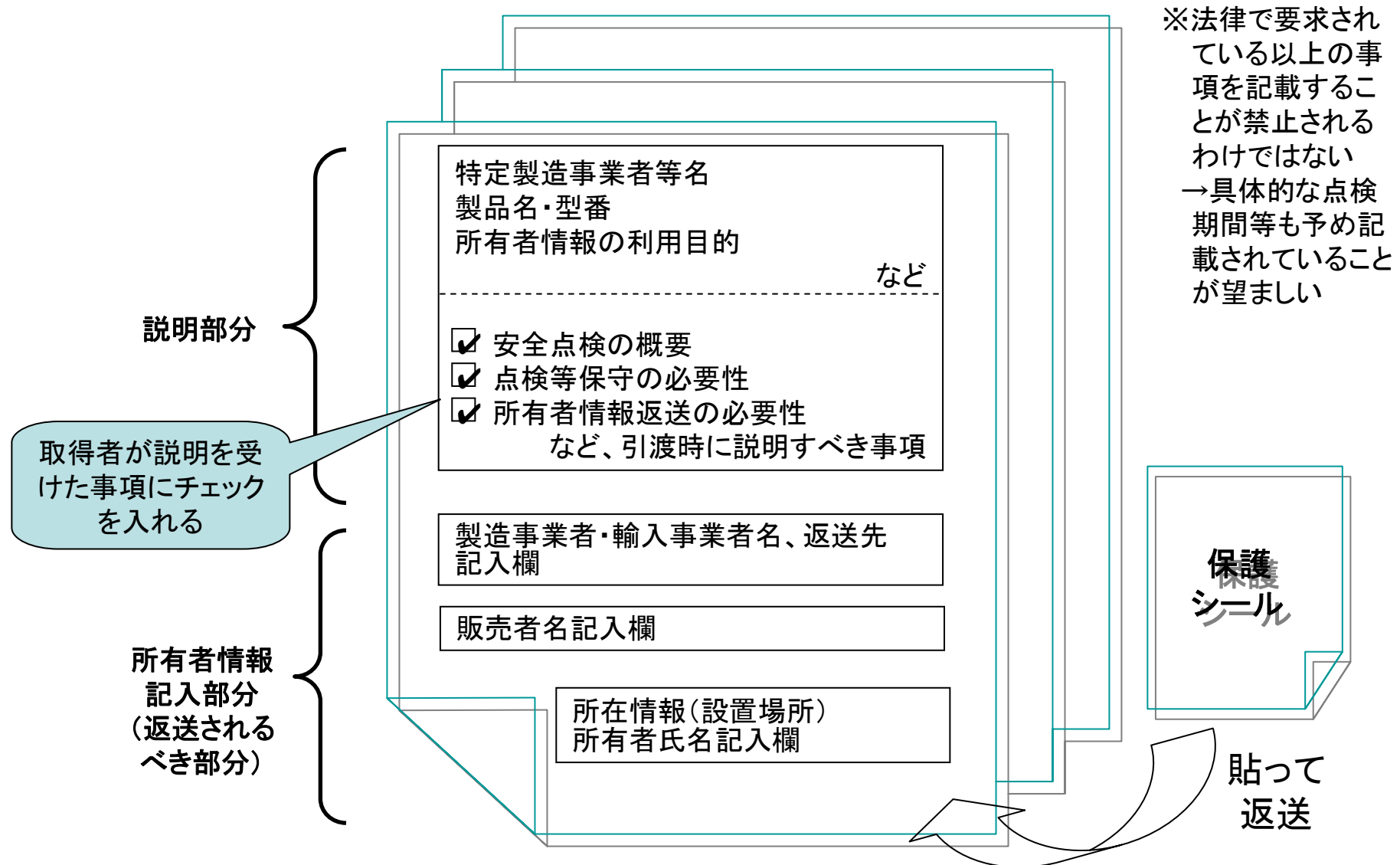
ABC-XX-XX-XX-XX-XX-XX

製品の添付文書の記載事項のイメージ

設計標準使用期間の算定根拠	この製品の設計標準使用期間の算定に当たっては、一日〇〇時間の使用等を前提としています。
点検を行う事業所の配置状況	…
この製品の安全上重要な右記の部品の保有期間は〇年です。	① … ② … ③ …
 注意	
・設計標準使用期間〇年を越えてお使いいただく場合は、経年劣化による事故を防止するための点検をすることが必要です。 ・この製品を安全にお使いいただくためには、年に1回フィルターの交換、〇〇〇、△△△が必要です。 ・設計標準使用期間は標準的な使用の場合の目安であり、過頻度使用する場合は短期間で劣化します。 ・所有者情報の登録が必要です。 ・所有者情報に変更があれば、変更連絡が必要です。	
⋮	

(参考)

本制度における所有者票のイメージ



長期使用製品安全表示制度

経年劣化に係る重大事故の発生率が高くなくとも、経年劣化に係る重大事故件数が一定件数以上の製品(施行日以降製造・輸入される製品)については、消費者に対する注意喚起のため、製造・輸入事業者に対し、経年劣化リスクに係る表示を義務付ける。具体的には、製品安全4法の技術基準により規定する予定。

対象製品(案) 扇風機、換気扇、ブラウン管テレビ、エアコン、洗濯機

予定されている表示イメージ:



この製品の設計上の標準使用期間は〇〇年です。
この期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。